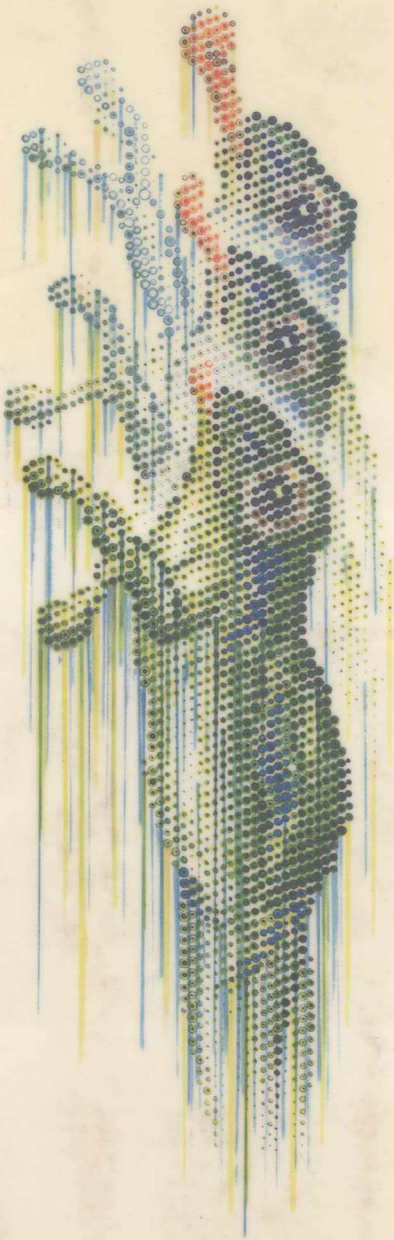
新水社

ブンナよ、木からおりてこい

水上勉原作・小松幹生脚色



新版

小松幹生脚色

ブンナよ、木からおりてこい

新水社

ブンナよ、木からおりてこい《新版》
一九八〇年五月一五日第1刷
一九八五年十月一五日第4刷
原作者——水上勉
脚色者——小松幹生
装丁者——中谷匡児
発行者——村上克江
発行所——株式会社新水社
東京都千代田区飯田橋一—六—八　三友ビル
電話〇三—二六一—八七九四　振替東京五—三六八九八
印刷——株式会社啓文堂
落丁・乱丁本はおとりかえいたします。

プンナよ、木からおりてこい

1

ガラスの箱に捕えられたカエル一匹。
大きな子供の手が、箱をおさえている。
子供たちの声。

声1　のん気な顔してるな、このカエル。
声2　というより、表情というものがないんだよ。考えるということがないからね。
声1　かわいそうだな。
声2　しあわせなんだよ、だから。
声1　そうかな。
声2　だってお前、考えることがなければ、悩みもなし、不安もなし、心配もなし、石ころとおんなじだ、しあわせだよ。
声1　それが、しあわせというものか。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

声2　そうさ。見ろよ。

と、手がカエルを突っつく。

声2　恐怖も何もないんだから。
声1　名前もないのかな。
声2　あるわけないだろう。
声1　何が楽しみで生きてるのかね。
声2　そんなもの、あるか。
声1　じゃ、何があるんだ。
声2　本能だけだよ。
声1　ひどい生活だな、すると。
声2　バカ。しあわせなんだよ、だから。見ろ、しあわせそうな顔してるじゃないか。
声1　これが、しあわせそうな顔か。
声2　行くぞ。一匹じゃ足りないんだから。
声1　これ、どこでつかまえた？　いないんだよまだ、あんまり。

声2　それが、あのお寺の沼の椎の木に登ってたんだよ、おかしなカエル。あんなところで何してたのかな。

と、子供たちは遠ざかる。

残ったカエル一匹。

ブンナ　このぼくの顔に表情がない……目が見えないのかな、人間の子供は。死んだお母さんが言っていた。蛇もこわい、蔦もこわい、しかし、人間の子供が一番こわい。本当だ。ぼくが、石ころとおんなじだなんて。名前なんかあるわけがないだって？　教えてやろうか。ぼくの名はブンナだ。死んだお父さんがつけてくれた名前なんだ。ちゃんと名前があるんだ。どうしてブンナというのか、それは知らない。でもぼくはブンナだ。石っころじゃない。だからジャンプだってできる。……逃げるぞ。こんなもの。大した高さじゃない。（跳ぶ。一度、二度、三度）だめだ……脚に力がはいらない。おなかの中が空っぽなんだ。冬眠から醒めて、まだ何も食べていない。残ってた力はあの椎の木のてっぺんから降りるのにすっかり使いはたしてしまった。せっかく、これで仲間のところに帰れると喜んでいたのに、そのとたんに、こんなことにな

るなんて。くそ！……どうだ、これでもぼくの顔は無表情だというのか？　考えることがないというのか。悩みがないだって？　あるぞ！　悩みだって、喜びだって、いっぱいあるんだ！……お寺の沼の夏の生活……

2

お寺の沼、夏。
読経。
カエルたちがたくさん集まっている。
読経もおわり、静かになる。
和尚さんがやってくる。

和尚　そら、おいしいパンとふとごはんつぶだ。鯉も鮒もカエルも、みんな寄っといで。
（と、餌をバラまく）そうら食べろ、そうら食べろ。うばい合いをしちゃダメだよ、仲良くしなくちゃいけないよ、強い者が食べ物を一人じめにして、弱い者を見殺しに

するのは悪いことだ。強い者は弱い者をいつもかばってやらなくてはいけない。さあ、きょうは食べ物はたくさんある。仲良くするんだよ。（退場）

カエル1　きょうは説教が短かったな。

カエル2　誰も聞いてないのを知ってるんだろう、いいことだよ。

カエル1　シラケるからな、長くて非現実的な説教は。

カエル2　まったく。

カエル3　きょうの葬式は誰のだ？　知ってるか？

カエル4　知らん。

カエル3　じいさんか？　ばあさんか？

カエル4　知らん。

カエル3　子供か？

カエル4　知らんと言ってるだろ。

カエル5　人が死ぬたびに、いつもこういうことがあるといいんだがな。

カエル6　いつもじゃないのか？

カエル5　めったに無いよ、出来心だよ。たまあに、妙に心やさしい気持になる時があって、そこに偶然仲間が死んで、しんみりする、そんな時だよ、人間が他の生き物に親

切にするのは。

カエル6　和尚さんもか？

カエル5　あれは商売がらみだからね。悪いことはしないが、どこまで本気でやってるか わかったものじゃない。

カエル6　なるほど。

カエル7　ブンナ、おいブンナ、お前そんなところで寝てるのか？

と、呼ばれたブンナは岩の上。

ブンナ　寝てちゃいけないのかい？

カエル7　だって、いっぱい和尚さんが食べるものをくれたよ。

ブンナ　知ってるよ、ちゃんと片目をあけて見てたからね。

カエル7　じゃ、なぜ降りて来てみんなと一緒に食べないんだ、腹でもこわしてるのか？

ブンナ　おなかがいっぱいなんだ、さっき女郎蜘蛛（じょろうぐも）を丸ごと一匹食べたからね。

カエル7　え？　なにを食べたって？

ブンナ　女郎蜘蛛を食べたんだよ。

近くのカエルたち、ブンナに注目する。

ブンナ　人間のくれるパンのくずとか、ふのカケラなんて、ぼくちっともおいしいと思わないよ。女郎蜘蛛はとてもおいしいよ。ちょっとつかまえるのがむずかしいけどね。

カエル7　つかまえたのかい？

ブンナ　おいしかったよ。パンとかふと違って、なにしろ、生だからね。（歌う）

女郎蜘蛛はうまいよ
ナマだからね
つかまえるためには運が大切　運
だけど運だけじゃだめ　わかるかい
必要なのは勇気
奴は高く巣をつくるからね

女郎蜘蛛はうまいよ
ナマだからね

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

つかまえるためには運が大切　運
だけど運だけじゃだめ　わかるかい
必要なのは技術
奴はとてもすばしこいからね

カエル1　なに者だ、あのナマイキな子供は。
カエル2　ちょっとジャンプ力があって、ちょっと木登りがうまい、それだけだ。ブンナと言ってね、トノサマガエルさ。
カエル1　父親は？
カエル2　この春に死んだ、蛇に持ってかれてね。だから、この間までめそめそ泣いてばかりいたよ。
カエル1　母子家庭か、すると。
カエル2　いや、母親は原因不明の行方知れず、ずっと前にね。
カエル1　うらやましいね、女郎蜘蛛か。おれも若いころはつかまえたさ。
ブンナ　そういうわけだから、ぼくはここで寝ているよ。片目はあけたままでね。
カエル7　片目あけたまま？
ブンナ　あけた片目で見張りをしているからね。だからみんなゆっくりパンくず食べたり

泳いだりするといい。

カエル7　大丈夫かい、片目で。

ブンナ　大丈夫。

カエル7　ほんとうかい？

ブンナ　まかしといて。

カエル7　おい、みんな、ブンナが見張りをやってくれるってさ。だから、のんびり遊べってさ。

カエルたち（大喜び）

日ざし強き夏の
小さな沼の木陰で
まんぷくの腹さすり
泳ぐこの日よ

日ざし強き夏の
風ゆらぐ水面で
仲よき友と手をとり

泳ぐこの日よ

日ざし強き夏の
光にぶき水底で
泥と遊びたわむれ
泳ぐこの日よ

ブンナ、ぴくりと耳をたてる。
頭をもたげる。
なにかが聞こえる。

ブンナ　みんな、静かにして。静かに。

不気味な音が迫ってくる。

カエルたち　蛇だ！　蛇だ！　（と口々に）

またたく間に散って消えてしまい、あたりに誰もいなくなる。
蛇、登場。

蛇　ちくしょうめ
逃げちまいやがった　用心したのにな
汗でうろこ足がすべったんだ
もう十日も何も食ってねえ
今朝はすずめをくわえそこなった
せめてカエルでもと思ったのに
ついてねえこった
カエルなんてうまいもんじゃねえ
にわとりの卵にくらべたら　話にならねえ
ちくしょうめ
カヤの葉が横っぱらをひっかきやがる
夏はあつくていやだ
腹がへるといらいらする

なにか食って昼寝でもしてえ
死んでる奴はいやだ　うまくねえ
どこへ消えたんだ
出てこいちくしょう
まあいい　また来よう
春さきにはここで
たらふくゴチになったっけ
なに、またなんとか　手もあるだろうさ
へ、待ってろよ

と、蛇は去って行く。
あちら、こちらから、一匹また一匹とカエルたち姿を現わす。
じっと見送って——

カエル3　ブンナのおかげだ。
カエル4　助かった。

カエル7　ブンナありがとう。
ブンナ　いやあ……ぼくは……
カエル5　おや、謙遜するんだね。
カエル6　ハハ、もう大人だ。

と緊張がとける時、蛇の去った方角から仲間の悲鳴が——
一斉にそちらを向いて身をこわばらせる。

カエルの声　おかあさーん、おかあさーん、おかあさんが、蛇に。
誰か——誰か——助けて！　おかあさーん！　（泣く）

母親ガエルの子を呼ぶ声と蛇の笑い声が交って聞こえてくる。
動かないカエルたち。

ブンナ　助けてやりたいなあ！
カエルたち（歌）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.